

年間指導計画

教科		科目		履修対象年次		単位数	
国語		国語総合（古典）		1		2	
科目担当者				吉弘惇也・新條文秀・藤井浩太郎			
身に付けられる力				・古文や漢文に親しむ態度 ・語彙力 ・基礎的な古典文法を理解する力 ・読解力			
学期	月	授業 時数	単元名	学習活動	身に付けられる力		
1 学 期	4	4	<古文分野> ○古文入門 『宇治拾遺物語』より 「児のそら寝」 『十訓抄』より 「鬼の笛」 『徒然草』より「つれづれなるままに」 <漢文分野> ○漢文入門 ○故事「借虎威」または「朝三暮四」	<古文分野> ○古語辞典の引き方を学ぶ ○歴史的仮名遣いを理解する。 ○用言の活用を理解する。 ○古文作品の面白さにふれる。 <漢文分野> ○訓読の方法、書き下し文を学ぶ。 ○返り点、置き字、再読文字を理解する。 ○故事の面白さにふれる。	古文・漢文に関する興味・関心をもち、その世界に親しむ態度 基礎的な古典文法を理解する力		
	5	8					
	6	8					
	7	4					
	8						
2 学 期	9	6	<古文分野> 『土佐日記』より「門出」「忘れ貝」 『徒然草』より 「ありがたきもの」 「丹波に出雲といふ所あり」 「雪のいと高う降りたるを」 <漢文分野> ○史伝 「臥薪嘗胆」	<古文分野> ○助動詞の意味や活用を理解する。 ○主要な助詞の意味・法則を理解する。 ○日記・随筆を読み、昔の人々の生活や感性、価値観を理解する。 <漢文分野> ○訓読の基礎、書き下し文に慣れる。 ○史話を楽しみ、言葉の出典を理解する。	古典を読み解くための基礎的知識 古典作品を味わい、楽しむ態度 基礎的な古典文法を理解する力		
	10	8					
	11	8					
	12	6					
3 学 期	1	6	<古文分野> 『平家物語』より「木曾の最期」 ○和歌 『万葉集』 『古今和歌集』 <漢文分野> ○唐詩 春暁 江雪 他	<古文分野> ○助動詞の定着をはかる。 ○様々な時代の作品を読み、時代固有の言葉遣いや価値観を学び、物語・短歌・ ○和歌の修辞法を理解する。 ○文学史を理解する。 <漢文分野> ○漢文句法を理解する。 ○詩を味わい、漢字の語彙を豊かにする。	古典特有のものにとらえ方、感じ方、考え方を理解する態度 基礎的な古典文法を理解する力		
	2	8					
	3	4					
合計時数		70					
教科書 副教材		教育出版「精選国語総合古典編」 文英堂「古典文法ベーシックノート」 文英堂「標準新古典文法」 京都書房「新国語総合ガイド五訂版」 尚文出版「新明説漢文ノート」					
評価の観点・方法		平常点、小テスト、定期考査の結果等を含め総合的に判断する。					
履修上の注意点		古語辞典・副教材を常に携帯すること。					
特記事項等		なし					